

鹿児島市CKD予防ネットワーク Web研修会

【日本医師会生涯教育カリキュラムCC:10 1.0単位】

日時

2025年2月13日(木) 19:00~20:00

形式

Web配信 | Zoom

配信会場 | 協和キリン株式会社 鹿児島営業所

鹿児島市西千石町1-32 Wビルディング西千石町 8F TEL:099-223-2700



第1部

19:00~19:20

鹿児島市CKD予防ネットワークの 課題と未来への展望

座長

鹿児島大学病院 腎臓内科 助教

吉嶺 陽仁 先生

演者

鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 衛生学・健康増進医学分野 教授
鹿児島市CKD予防ネットワーク会議委員長

堀内 正久 先生

第2部

19:20~20:00

佐賀県におけるCKD対策と 医療連携の取り組み内容

座長

鹿児島大学病院 腎臓内科 助教

吉嶺 陽仁 先生

演者

佐賀大学医学部附属病院 腎臓内科 准教授/診療教授

宮園 素明 先生

共催 | 鹿児島市CKD予防ネットワークプロジェクト会議・公益社団法人鹿児島市薬剤師会・協和キリン株式会社
後援 | 鹿児島市医師会・鹿児島県保健福祉部健康増進課



協和キリンの2030年に向けたビジョン



協和キリンは、イノベーションへの情熱と多様な個性が輝くチームの力で、日本発のグローバル・スペシャリティファーマとして
病気と向き合う人々に笑顔をもたらすLife-changingな価値の継続的な創出を実現します。

■ Increase Smiles

医療の担い手のパートナーとして、病気に向き合う全ての
人々がひとりでも多く、笑顔になれる社会をつくらう。

■ Continue to Challenge

今まで築き上げてきた歴史と経験に加え、デジタル技術やエリア
担当制など新しい“もの”を積極的に取り入れ、自分たちの壁を
乗り越えるチャレンジを続け、グローバル・スペシャリティファーマに
おいて輝き続ける最高のチームにならう。

■ Bring the Original Value

強みのある4領域の新薬を中心とする、最適化された情報
提供・収集活動を展開していこう。
部門間連携による多角的なアプローチや地域の医療課題
解決に向けた支援活動も加え、製品が持つ本来の価値を
必要な患者さんに届けよう。

Web視聴登録手順

【ご視聴方法】

- ①下記URLへログインあるいは二次元コードを読み込むと登録画面が表示されます。

https://zoom.us/webinar/register/WN_bqkxvUvER1SyGXMD31JdDw



- ②氏名、メールアドレス、ご施設名、職種、都道府県をご記入後「登録」ボタンをクリックしてください。

- ③ZOOM視聴アドレスがメールにて届きますので、当日はそちらからご視聴下さい。

【ご視聴におけるご案内】

ご質問はチャット画面から常に受け付けています

※本セミナー視聴状況は先生を担当する弊社MRにフィードバックされ、情報提供やサービスのお知らせのために活用させていただく場合がございます。
※本セミナーで取得したご施設名・ご芳名・E-mailアドレスは、弊社による医薬品および医学・薬学に関する情報提供並びに参加者に関する確認のために利用させていただきます。あらかじめご了承ください。また、当該情報は、弊社から共催の鹿児島市CKD予防ネットワークプロジェクト会議、公益社団法人鹿児島市薬剤師会様、後援の鹿児島市医師会様に開示させていただきます。
※自家用車のご利用につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
※視聴環境を満たしていても、端末によって視聴ができない場合がございますのでご了承ください。

【本件のお問い合わせ先】
協和キリン株式会社 鹿児島営業所
office : 099-223-2700



協和キリンの2030年に向けたビジョン



協和キリンは、イノベーションへの情熱と多様な個性が輝くチームの力で、日本発のグローバル・スペシャリティファーマとして病気と向き合う人々に笑顔をもたらすLife-changingな価値の継続的な創出を実現します。

■ Increase Smiles

医療の担い手のパートナーとして、病気に向き合う全ての人々がひとりでも多く、笑顔になれる社会をつくらう。

■ Continue to Challenge

今まで築き上げてきた歴史と経験に加え、デジタル技術やエリア担当制など新しい“もの”を積極的に取り入れ、自分たちの壁を乗り越えるチャレンジを続け、グローバル・スペシャリティファーマにおいて輝き続ける最高のチームにならう。

■ Bring the Original Value

強みのある4領域の新薬を中心とする、最適化された情報提供・収集活動を展開していこう。部門間連携による多角的なアプローチや地域の医療課題解決に向けた支援活動も加え、製品が持つ本来の価値を必要な患者さんに届けよう。